



タマネギ



<ネギ科ネギ属>

●主な栽培地

好間町

生産の歴史的由来

タマネギの原産地は、現在のイラン・パキスタン辺りを含む西アジアではないかといわれていますが、野生種に近い品種がインドやトルコ、エジプトなどで栽培されていることから、もっと広い範囲ではないかという説もあります。

栽培の起源は、古代エジプトまでさかのぼります。ピラミッドを築く労働者に、ニンニクとタマネギを配給したとの記録が残っており、当時から栽培されていたことがうかがい知れます。

その後、ヨーロッパ、アメリカと伝わったタマネギですが、中国の一端でとどまり、19世紀に入るまで中国本国で普及しませんでした。多くの野菜が中国経由で伝わっていた日本に、タマネギが作物として伝わったのは明治初年、政府が欧米から多くの品種の種子を導入した際だったといわれています。

日本のタマネギ産地は北は北海道から南は九州まで全国的に分布しています。栽培において、北海道などの寒冷地とそのほかの地域で播種期や収穫時期に違いはあるものの、貯蔵しやすく調理しやすいタマネギが、日本の主要野菜の一つであることは間違いありません。

好間町

在来タマネギは家の歴史を語る

栽培者が約60年前にこの地に嫁いだ時、すでに義父がこのタマネギを栽培しており、それからずっと自家採種にて栽培を続けてきたそうです。

なぜ市販の種に頼らずここまで栽培を続けてきたのかを尋ねると、「それが普通だと思っていたし、病気などにも強い品種だったから」と栽培者は言います。

収穫したタマネギを近所に分けてあげることも楽しみで、そのことも長年栽培を続けてこられた理由の一つです。近所の方が、時々、タマネギの栽培法などを聞きに来ることもあり、義父からタマネギについてもっといろいろと話を聞いておけば良かったと思うこともあるそうです。



栽培方法

播種期は9月中旬で、種を播く一週間くらい前に、畑に石灰を撒いておきます。

タマネギの種は小さく軽いので、畑にばら蒔きしたあと、雨などで流れないように、土を薄くかけ、鍬などの平らな部分で軽くおさえます。

11月頃に、芽が箸ほどの太さになったら定植します。高さ5cm、幅20cmの畝を作り石灰を撒いておきます。約15cm間隔に指先で球根（鱗茎とも言う）の2倍程度の植え穴を作りながら、千鳥植えします。この時、ヒゲ根を切らないよう球根の下でやわらかく丸め、球根とヒゲ根が地上に出ない程度に土をかけます。この際に株間に水分や空気が適度に入り、根元に陽が当たるようにします。

追肥は12月中旬にしますが、葉にかからないよう気を付けます。特に土寄せする必要はありませんが、草引きはその都度、苗を傷めないよう手で行います。

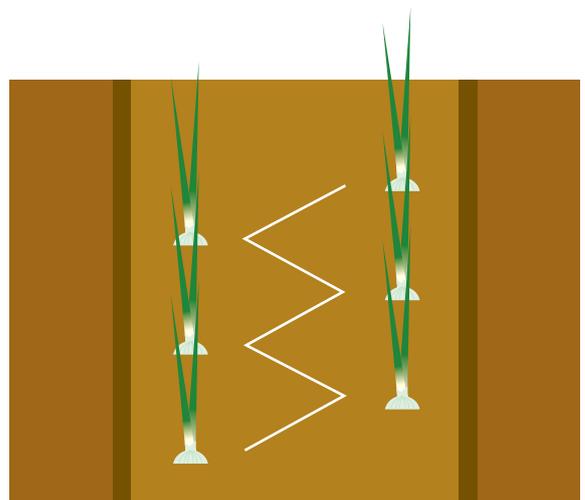
6月に入ると葉や茎が徐々に黄色くなり、自然に倒れ始めるので、6月下旬から収穫をはじめます。保存する分は、茎を縛って竿などに吊るし、乾燥させておきます。

タマネギは全部が開花するわけではありません。栽培者宅では80～100株中、花を付けるのは10株程度です。種を採るには、この開花した株のネギボウズが黒くなるのを待って切り落とし、乾燥して種が自然にこぼれ落ちるまで干しておきます。

種の保存は、サラシで作った袋に入れ、乾燥した場所に置きます。タマネギの種は、長ネギの種と類似しているので、間違わないよう注意が必要です。



1月中旬の苗の様子



参考) 千鳥植え
2条以上で植えた時に、株と株との中間に隣の条の株があるように植える植え方



収穫時期を迎えたタマネギ

いわき昔野菜のレシピ 2014年3月発行

発行 **いわき市農林水産部農業振興課**

〒970-8686 福島県いわき市平字梅本21番地

TEL. 0246-22-7479 FAX. 0246-22-7589

■ <http://www.city.iwaki.fukushima.jp>

編集 **いわきリエゾンオフィス企業組合**

〒970-8026 福島県いわき市平字作町2丁目1-9

(エスビル2F)

TEL. 0246-35-1430 FAX. 0246-35-1431

■ <http://www.iwaki-liaison.co.jp/>

■ E-mail : info@iwaki-liaison.co.jp